資料1

意見、提言等への対応について

平成25年2月12日

徳島県総合計画審議会

（1）平成２５年１月２１日　徳島県総合計画審議会「宝の島・とくしま創造部会」委員意見・質問　・・・・・・・・・　１

（2）県政運営評価戦略会議で採択された「県民からの優れた意見、提言」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７

（1）平成25年1月21日　徳島県総合計画審議会「宝の島・とくしま創造部会」　委員意見・質問

番号	委員名	部会資料該当箇所	意見・質問の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
1	永本委員	P39　75番、76番 P40　77番	【既存事業の削減について】 事業仕分け的な発想を取り入れてもよいのでは。事業を削ることをもっと評価するシステムが必要、そうしないと忙しくて疲弊する。民間の力を利用して、連携を図りながら事業を削ることも考えるべき。	委員のご意見のとおり、限られた人材・財源の中で既存事業の大胆な見直しが必要であり、これまでも取り組んできたが、今年度は縦割りの弊害を払拭する観点から、部局横断的な視点での事業の検証に取り組んでいる。また、「ゼロ予算事業」の実施や、県民の皆様から、もの・お金・人材などの支援を頂き、施策をより一層強力に推進する「県民スポンサー事業」など、民間の力の活用にも取り組んできている。 加えて県では、「協働」で地域の課題解決を図るため、「モデル事業」等を実施し、実践を通じて団体の成長を図るなど、ＮＰＯ法人等社会貢献団体に対する様々な支援策を行ってきた。さらに、県庁各部局が連携し、様々な県事業について、ＮＰＯにどのように委託できるかなど、検討を進めていきたい。	政策 県民
2	岩野委員	P39　75番、76番 P40　77番	【不正防止について】 不正防止のためにも、ライン制を復活してはどうか。また、難しい業務についてエントリー制の導入を図ってはどうか。	本県では、平成13年度から担当制を本格的に導入し、組織の大括り化による業務の効率的執行や職員の総戦力化を進めてきたが、一方で、担当内のフラット化により、チェック機能が十分発揮されていないといった状況も見受けられる。 平成25年度に向け、担当リーダーの役割の明確化や権限の強化を図るなど、担当制のメリットを活かしつつ、担当リーダーによるチェック機能が発揮される組織執行体制への見直しを進める。 また、平成15年度から庁内公募制度を実施しており、幅広い業務はもとより、「国文祭の開催」のように期限を切って進めているプロジェクトや、「南海地震対策の推進」など喫緊の行政課題についても公募を行い、職員の意欲や能力が発揮できる機会の創出を進めるとともに、成果を挙げた職員に対する評価を適切に実施する。	経営

（1）平成25年1月21日　徳島県総合計画審議会「宝の島・とくしま創造部会」　委員意見・質問

番号	委員名	部会資料該当箇所	意見・質問の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
3	村崎委員	P39　75番、76番 P40　77番	【評価方法について】 不祥事が発生したらＤ評価、発生しなければＡ評価なのか。評価すること自体が適切でない気がする。	県政運営評価戦略会議においては、「いけるよ！徳島・行動計画」に位置付けられた全ての主要事業（７３７事業）を対象に、“県民目線”による評価を実施しており、県の施策として取組を進めているものである限りは、その状況等について客観的な評価を行うべきと考えている。 なお、評価に当たっては、今後の事業展開や目標達成のスピードアップに繋げていくため、次の３項目について点数化し、その総合点によりＡからＤの区分を行っており、不祥事発生の有無といった結果のみを捉えて評価しているものではない。 ①平成２３年度の取組内容及び数値目標に対する進捗状況 ②事業を進める上での課題等の把握 ③目標達成に向けた今後の取組方針 また、 評価に当たっては、先ず各担当部局から主要事業ごとの認識を示した「評価シート」が提出され、これを踏まえて戦略会議の場で各委員による意見表明や質問に対する担当部局の補足説明などが行われたのち、「評価結果」が取りまとめられている。	監察
4	真田委員	P3　45番	【アンテナショップについて】 観光の他の事業の評価はＡやＢ、常設でない「新鮮なっ！とくしま」号はＡ評価になっている。全国に向けた本県の物産、観光の情報発信はすでにできているのではないか。アンテナショップはわざわざ作る必要はないと思う。部署が違うから別の仕組みをつくるのではなく、一つのもので効率的に情報発信をしていくことを考えたらどうか。	「新鮮なっ！とくしま」号は、本県の移動ブランドショップとして、物産はもとより観光、文化など、本県の魅力を広く全国に発信しているところであり、今後ともアンテナショップとの効果的、効率的な連携を図りながら、双方の長所を最大限に発揮できるよう取り組んでいく。	商工

（1）平成25年1月21日　徳島県総合計画審議会「宝の島・とくしま創造部会」　委員意見・質問

番号	委員名	部会資料該当箇所	意見・質問の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
5	岩野委員	P3　45番	【アンテナショップについて】 徳島の物産、観光は、県としてのビジョンがあっての戦略とは思えない。まずは、県のビジョンがあって、その結果として、そのビジョンを全国に向かって発信することが大事。民間型アンテナショップに対する県の役割は広報とパンフの配布のみであり、民間にとってメリットが少ない。	本県では、平成２２年に策定された徳島県観光振興基本計画及び平成２４年に策定されたとくしま県産品振興戦略に基づき、観光振興、県産品振興に係る施策を推進している。 民間型アンテナショップについては、県の取組との連携を図ることでより効果を発揮されるものと考えており、今後もその活用についてさらに検討を加え、県産品の振興につなげていく。	商工
6	内藤委員	P3　45番	【アンテナショップについて】 民間店舗型に特化しなくても、ネットショップに関しても認定するのが重要。また、ネットショップ事業者の発掘も大事。	インターネットの活用については、全国に広く県産品のタイムリーな情報発信を行うことができるという点で、今後さらに重要度が増すと思われるので、徳島県産品を取り扱うネットショップ事業者の発掘を進めていくこととし、行動計画の改善見直しにおいても、ネット販売のさらなる充実に取り組み県産品の販路拡大を図っていくことを明記していく。	商工
7	近藤委員	P3　45番	【アンテナショップについて】 食べてもらう、触れてもらうことも大事であり、行政がそれを支援することが必要でないか。また、インターネットを活用しての広報を若い県職員の発想で、チームを作り進めてほしい。	県内外の方に徳島県産品を食べてもらう、触れてもらう機会を増やすことは県産品振興のために大変重要であり、今後とも県産品の認知度向上や販路拡大に積極的に取り組んいく。また、インターネットを活用した情報発信についても、若手職員の発想を取り入れるなど、工夫を凝らしていく。	商工

（1）平成25年1月21日　徳島県総合計画審議会「宝の島・とくしま創造部会」　委員意見・質問

番号	委員名	部会資料該当箇所	意見・質問の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
8	近藤委員	P4　53番	【メディカルツーリズムについて】 メディカルツーリズムはどのような進捗状況なのか。	「医療観光（メディカルツーリズム）」や「教育旅行」等、先進的な医療サービス、魅力ある「体験型観光」など「徳島県の強み」を活かした外国人観光誘客に取り組んでいる。「医療観光」は、東日本大震災・福島原発事故の影響により激減。その後、安全・安心ＰＲに努め、旅行業者の視察・照会も増え、回復の兆しが見えたところ尖閣諸島問題が生じ、その影響を受けている。一方で「教育旅行」は、訪問者が韓国、台湾、シンガポールなどへ広がりを見せており、そのほか「マチ☆アソビ」に代表されるアニメ文化も外国人の関心が高いことから、「徳島の魅力」をしっかりとＰＲし、東南アジアも視野に入れた訪日観光誘客に取り組んでいく。 こうした視点を踏まえ、東アジア・東南アジアを重点エリアとする「新たなグローバル戦略」の方針として行動計画の改善見直しに反映していく。	商工
9	住友委員	P1　6番	【徳島に来る動機付けについて】 高速道路料金が全国一律になったからといって、有利になるわけではない。徳島に来る「動機付け」を発掘し、作ることが必要。医療観光や湖南省、バス助成も動機付けの一つ。	本県の認知度を向上し、徳島に行ってみたいと動機づけるため、メディアを活用した観光ＰＲを実施するとともに、旅行会社が造成したツアーへの支援や借上バス代金の助成を行う。 また、豊かな「自然」や本県ならではの「伝統芸能や文化」を直接体感する「体験型観光」の先進地域としてのブランドの確立や、徳島でしか味わえない新鮮な料理など、「食」と「観光」を組み合わせた「旅行商品」の企画なども積極的に進めていく。	商工

（1）平成25年1月21日　徳島県総合計画審議会「宝の島・とくしま創造部会」　委員意見・質問

番号	委員名	部会資料該当箇所	意見・質問の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
10	唐渡委員	P7　25番 P33　61番	【認定農業者について】 認定農業者や農業法人になることのメリットをしっかり明示すべき。 【食育ボランティアについて】 食育ボランティアに、こんなことをしてほしいというお願いをもっとしてもよい、野菜ソムリエとの連携も。現場の末端まで行き届いた施策を進めてほしい。	制度資金の融資に対するメリット措置の周知に併せ、自ら作成する経営改善計画の達成に向け、経営改善に取り組むという制度主旨の周知を行っていく。 また、認定農業者並びに農業法人は、本年度から作成が開始された「人・農地プラン」において、地域の中心となる経営体として本県農業を支える中心的な役割を担うことから、今後とも、引き続き育成・確保に努めていくこととし、行動計画の改善見直しにおいて主要事業及び数値目標の修正を行う。 食育推進ボランティアは、栄養士、教育関係者、農業関係者、食生活改善推進員、野菜ソムリエなど、地域で食育推進の活動をされている１，６８０人（平成２５年１月末）の方々に登録いただいている。 食育推進ボランティアの皆様には、県民の野菜摂取量アップのための取組みの一つである「野菜料理もう一品運動」の展開をはじめ、県で行っている食育の推進にも、大いに御協力いただいている。 また、とくしま食事バランスガイドの推進方法など、地域での活動方法を習得していただく食育推進リーダー研修会を実施、地域での活動を促進している。 今後も、食育推進ボランティアの皆様の活動を通じて、豊かで健全な食生活の実践、食文化の伝承や地域産物を活用した食生活を推進していく。	農林
11	真田委員	P1　19番	【中心市街地の活性化について】 徳島市が東環状道路沿道を近隣商業地域に指定しようとしているのは逆効果である。中心市街地は、都市全体をデザインしていく視点を持ってもらいたい。	近隣商業地域などの用途地域の見直しについては、県は市と協議を行うが、地域主権のもと市の都市計画決定事項となっている。今後、市の都市計画マスタープランの見直しにおいて、都市全体をデザインしていく視点で市の考えもお聞きし、委員のご意見もお伝えして参りたいと考えている。	県土

（1）平成25年1月21日　徳島県総合計画審議会「宝の島・とくしま創造部会」　委員意見・質問

番号	委員名	部会資料該当箇所	意見・質問の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
12	美馬委員	P28　37番	【介護サービス従事者の研修について】 在宅精神障害者が高齢になると、介護サービスを受けるようになるので、高齢者の特性だけでなく、精神障害者の特性も含めた研修を取り入れてほしい。	高齢者、認知症高齢者への介護知識・技術の研修に加えて、精神疾患の方への対応や支援についての研修内容も検討したい。	保健
13	村崎委員	P7　25番 P16　102番 P28　37番	【数値目標について】 数値が間違っているとは思わないが、形だけのような気がする。数値目標をすべきところはして、無理やり作ったような数値目標をゼロにすることはできないのか。	単に「事業を推進する」といっただけでは、その進行管理が十分でないので、数値目標は可能な限り多く設定すべきとの意見もいただく。委員から個別にご指摘のあった数値目標については、無理やり設定したものではないと認識しているが、今後ともできるだけ県民の立場から見た事業の成果が表せられる指標となるようにするなど、数値目標の設定に関する具体的なご提案については積極的に受けとめ、改善見直しに繋げて参りたい。	危機 政策 保健 農林
14	岩野委員	―	【専門家の登用について】 各分野で引っ張っていける人材が必要。特に、観光、物産はプロの世界、素人が勝つのは無理であり、外部からの人材登用、専門家の招聘が必要。	現在、情報政策を統括する「CIO（最高情報統括監）」や監察局のトップである「監察統括監」に、それぞれの分野における専門家を任用しているほか、南海トラフの巨大地震への対策や統計データの分析などに知見を有する職員を任期付きで採用している。 今後とも、専門家の任用や任期付職員制度等を活用し、専門性を要する各種行政課題への的確な対応を図る。	経営
15	榊野委員	P14 120番	【次世代林業プロジェクトについて】 予算が付くのはありがたいが、あれもこれもでは現場では人手不足となる。目標数値を簡単に上方修正せず、今回上方修正するのを見直したらどうか。	今回の見直しは、林内路網の開設延長（累計）の平成23年度末実績が、平成24年度の目標値を上回ったことにより、上方修正しようとするものであり、引き続き、県産材の増産に欠かせない担い手の育成・確保を推進するとともに、林内路網の整備に積極的に取り組んでいく。	農林

（２）県政運営評価戦略会議で採択された「県民からの優れた意見・提言」

番号	基本目標	投稿方法	意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
1	基本目標1 にぎわい・感動とくしま	目安箱	○倉庫群の活用について 万代埠頭などの倉庫群ですが，マンハッタンのSOHO地区のように，名称を「SOKO」地区として，徳島をアピールできる，元気になれる場所へとさらに活用していけばいいと思う。他にも，小松島港周辺など倉庫がある場所と連携し，県内にさまざまな「SOKO」地区を増やし，水上バスなどで結べばさらに良くなるのではないか。	徳島小松島港万代中央地区は，港湾施設としての役割が低下してきており，周辺部の状況も大きく変化していることから，市中心部の水辺に位置する倉庫群の立地を活かし，「物流機能」 から「にぎわい空間」へ転換を図ることを目的として，既存の「倉庫」や「水域」を活用した実証実験を行動計画に位置付け取り組んでいる。 また，その中で「倉庫からSOCO(Space Of COmunity)へ」をコンセプトとしてアピールを行っており，徳島市中心部と万代中央ふ頭を結ぶ水上バスの実証実験にも取り組んでいる。	県土
2	基本目標1 にぎわい・感動とくしま	知事・市町村長会議	○県南の観光政策の充実について 高知県の室戸岬が世界ジオパークに認定され，高知県と連携して県南ルートの一層の充実を図ってくれるのではないかと期待している。さらに，室戸阿南国定公園が認定されてから，2014年で50周年を迎える。それを視野に入れて県南の観光政策のより一層の充実を図っていただきたい。	阿南市、室戸市、安芸市により「AMA構想」が打ち出され、県境を越えた連携が進められているところであり、県としても、これまで同様バックアップを行っていく。 また、2011年に室戸岬が世界ジオパークに認定されたこと、さらに2014年には、「室戸阿南海岸」が国定公園に認定されてから50周年を迎えることなどから、今後より一層、国内外から四国東南部エリアが注目を集めることになると考えており、この機会をとらえ、室戸市、安芸市はもとより、周辺町村や高知県とも連携し、これまで以上にエリアが一致団結したPRを進め、徳島県南部における、観光による交流人口の増加を目指していくこととする。	南部

（２）県政運営評価戦略会議で採択された「県民からの優れた意見・提言」

番号	基本目標	投稿方法	意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
３	基本目標2 経済・新成長 とくしま	目安箱	○次世代林業プロジェクトの推進について 　徳島県が「次世代林業プロジェクト」の取り組みの一環として間伐材を活用した，「自動車の木製ハンドル」，「木製の携帯電話や木製のスマートフォン」，公立学校の「木製の手すり」や「木製ベッド」，都市公園の「木製ベンチ」，「木製の漁礁」等の推進を期待する。	県では、「次世代林業プロジェクト」の一環として、平成２４年４月から「徳島県木材利用創造センター」を開設し、間伐材を含め木材を利用した新商品の開発研究に取り組んでいる。このセンターでは県民の皆様からのアイディアも活用し、様々な製品への利用を推進している。 　また、平成２５年４月１日施行の「徳島県県産材利用促進条例」に基づき、県産材を活用した様々な新商品の開発や木造公共施設等の整備に努め、木材の需要拡大を図り、「次世代林業プロジェクト」を推進していく。	農林
４	基本目標3 安全安心・実感とくしま	目安箱	○大鳴門橋への自転車道，遊歩道の設置について 　徳島県でも大鳴門橋に自転車道，遊歩道を設けてはいかがでしょうか。ジョギング，ウォーキング，自転車ブームで健康増進への関心が高まっており，また，糖尿病死亡率全国ワースト1返上の可能性もあることから，多くのメリットがあると思う。	雄大な吉野川の景色が堪能できる四国三郎橋や阿波しらさぎ大橋などの自転車歩行者道は、ウォーキング、ジョギング、サイクリングコースとして、多くの県民の皆様に利用されている。 　また、最近の健康志向の高まりを受け、「いけるよ！徳島　行動計画」においては、徳島の自然環境を活かした吉野川沿いと海岸線を結ぶコース（Tライン）の設定を位置付け、取り組んでいる。 　このため、ご提言の趣旨につきましては、行動計画の上記項目に含まれているものと考えている。	県土

（２）県政運営評価戦略会議で採択された「県民からの優れた意見・提言」

番号	基本目標	投稿方法	意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
5	基本目標7 宝の島・創造とくしま	目安箱	○徳島アニメ祭り　マチ☆アソビについて 　徳島がアニメで盛り上がることは喜ばしい。一方でアニメの中でも偏ったジャンルとなるため，子どもから大人まで楽しめる内容になっていない。このため，例えば，新町橋通りをドラえもんやクレヨンしんちゃん等各世代に支持されているアニメの山車によるパレードや往年のアニメソングのコンサート等の工夫を凝らす必要があるのではないか。 　また，アニメ祭りが県西部でも行われたのは良いことだが，県南にも波及させる工夫を凝らして欲しい。 　三好市山城町はこなきじじいに由来する妖怪にまつわるイベントや，徳島市や藍住町，美馬市脇町，つるぎ町貞光では古い町並みや城跡を利用した，戦国幕末イベントも開催すべきと思う。 　せっかくのイベント，一部の限られたアニメジャンルだけでなく，幅広い支持の得られる内容に育てることで，より多くの成果が生まれる。	「マチ☆アソビ」は、アニメ制作スタジオ「ユーフォーテーブル㈲」と県等がタイアップし、同社が制作した原画等、普段は目にすることのできない作品群を始め、他作品の展示や著名人の招聘を核としたアニメイベントであり、徳島市中心市街地を舞台に、春・秋の年2回開催しており、平成21年10月の第1回目からこれまで、計258,000人の参加実績をあげている。 　本イベントは20代以下の若者を中心に、出演者との近い距離感や旬のアニメ作品を題材とした企画がファンの人気を呼び、高いリピート率を誇るイベントであるが、昨年5月に開催された「マチ☆アソビ」では、ユーフォーテーブルシネマにて懐かしのアニメ（銀河鉄道999）が上映されるなど幅広い世代を対象にしたイベントや、秋の「マチ☆アソビ」にて空の玄関・徳島阿波おどり空港をアニメジャックするなど徳島市以外での企画も実施しており、今後もこれまで以上に多くの方に愛されるイベントを目指し取り組んで行く予定である。	商工